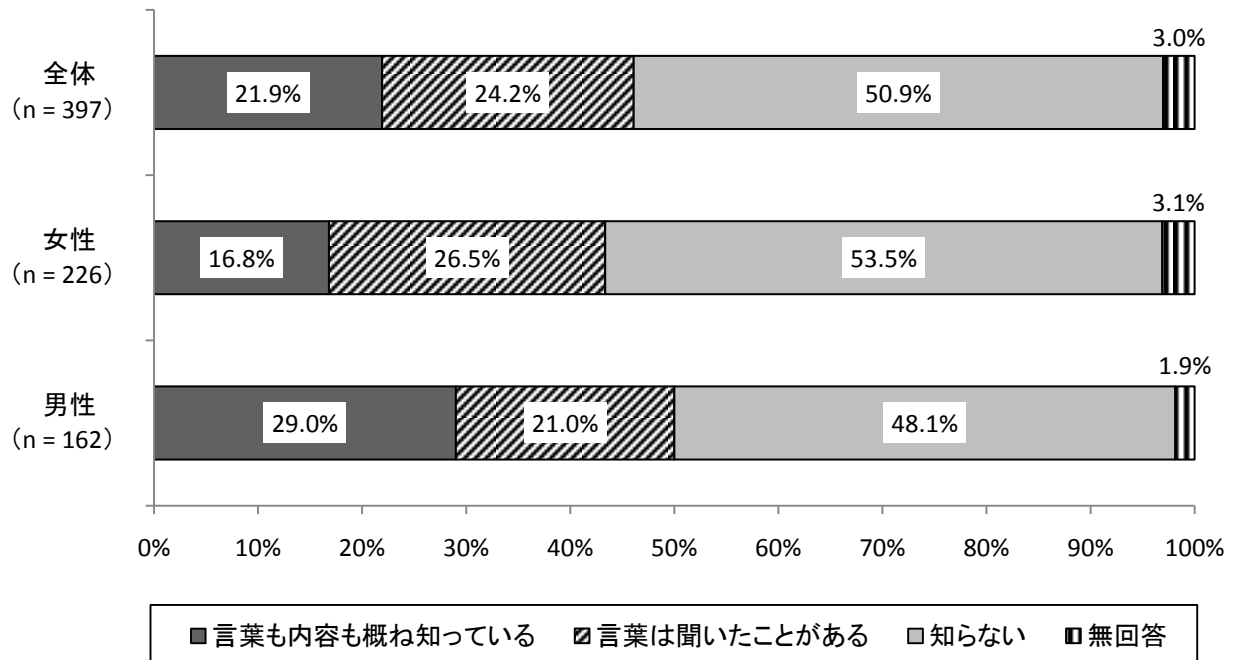


問8 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」(\*)という言葉や取組の内容を知っていますか。  
(〇は1つ)

【全体】



全体で見ると、「知らない」と答えた人が50.9%と最も多く、次に「言葉は聞いたことがある」が24.2%の順に多い。性別にみると、女性は「言葉も内容も概ね知っている」人は20%をきっている。男性は30%近くの人が「言葉も内容も概ね知っている」という結果となった。

年代別にみると、「言葉も内容も概ね知っている」と回答した人が最も多いのは20代男性が44.4%、次いで40代男性の40%となっている。女性は30代が33.3%と最も多くなっているが、これに対して、20代、40～50代では「知らない」と回答した人が60%を超えている。

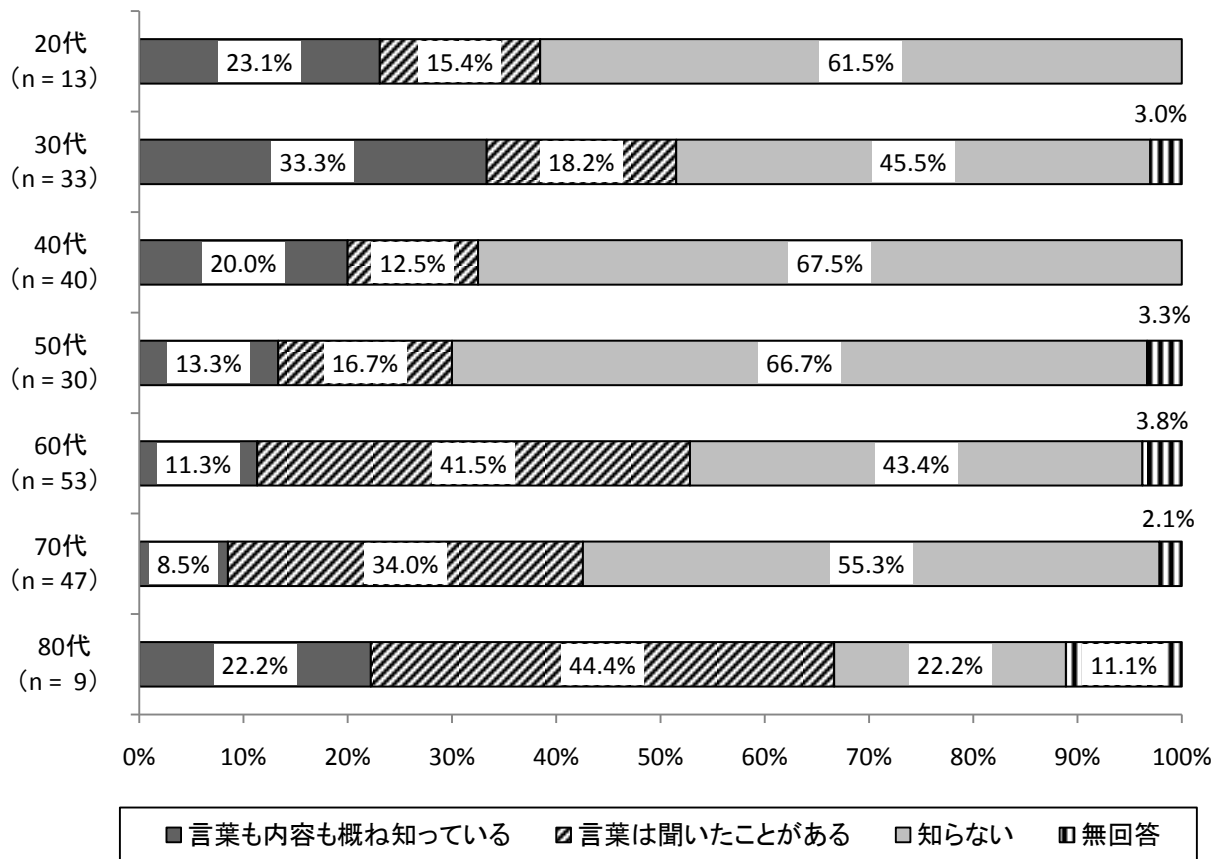
この結果から、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉も内容も、認知度が低いことが伺える。

(\*)「ワーク・ライフ・バランス」とは

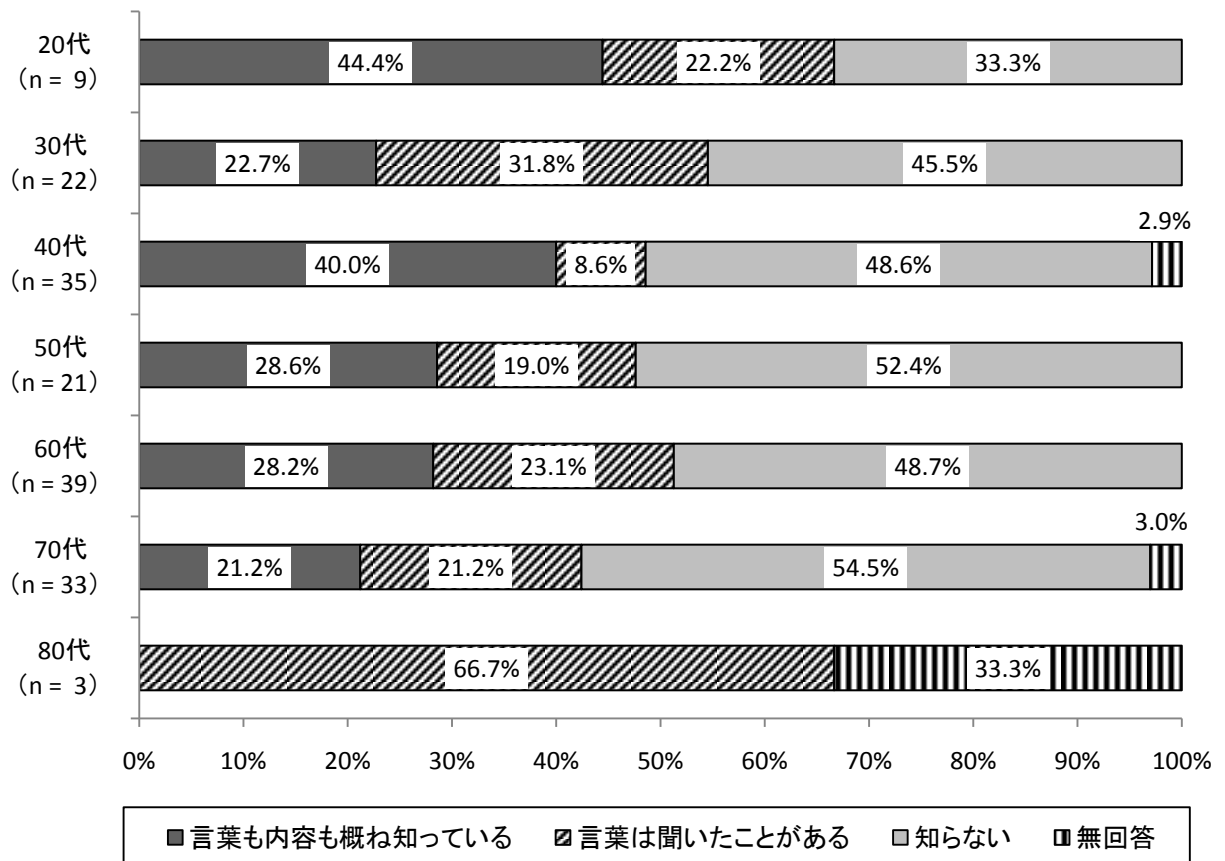
「仕事」と、子育てや親等の介護、地域活動などの「仕事以外の生活」との調和がとれ、その両方が充実している状態をいいます。

【性・年代別】

【女性】

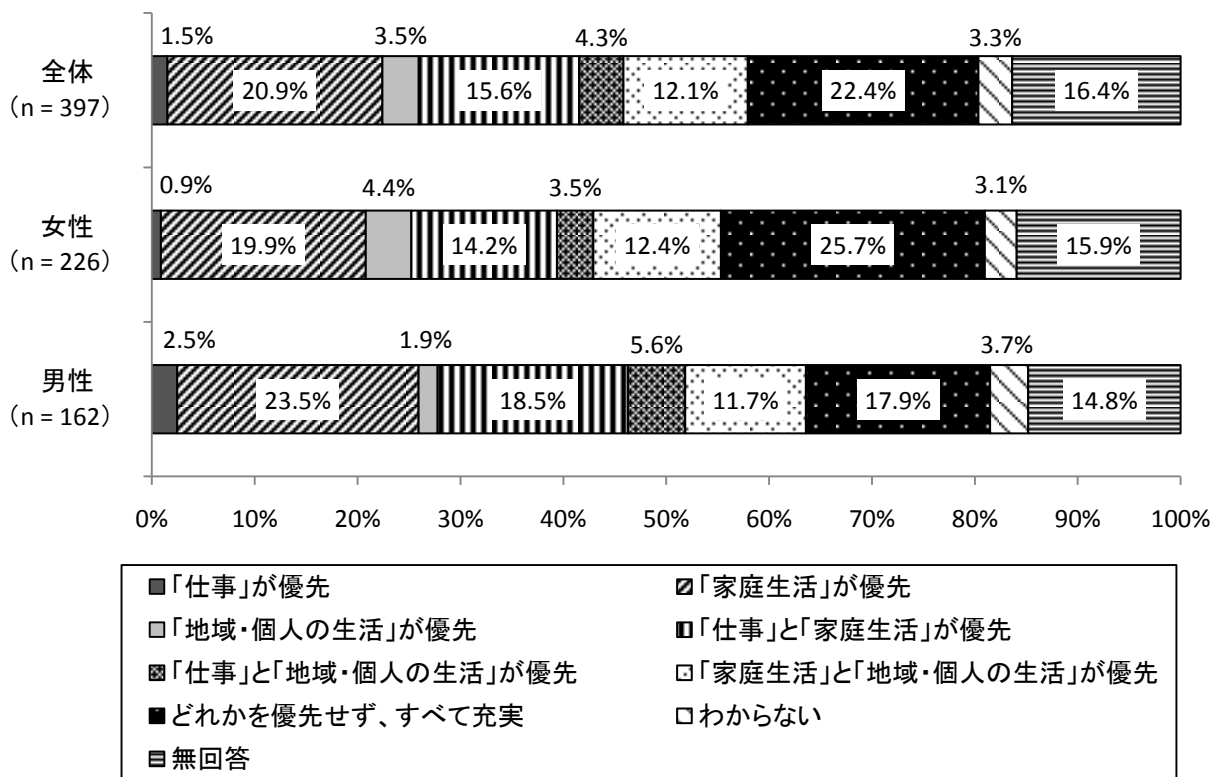


【男性】



問9 あなたの生活のなかでの「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。希望として優先したいものと、現実で優先されているもの、どちらも、それぞれ1つだけ選び、番号を記入してください。

【希望・全体】



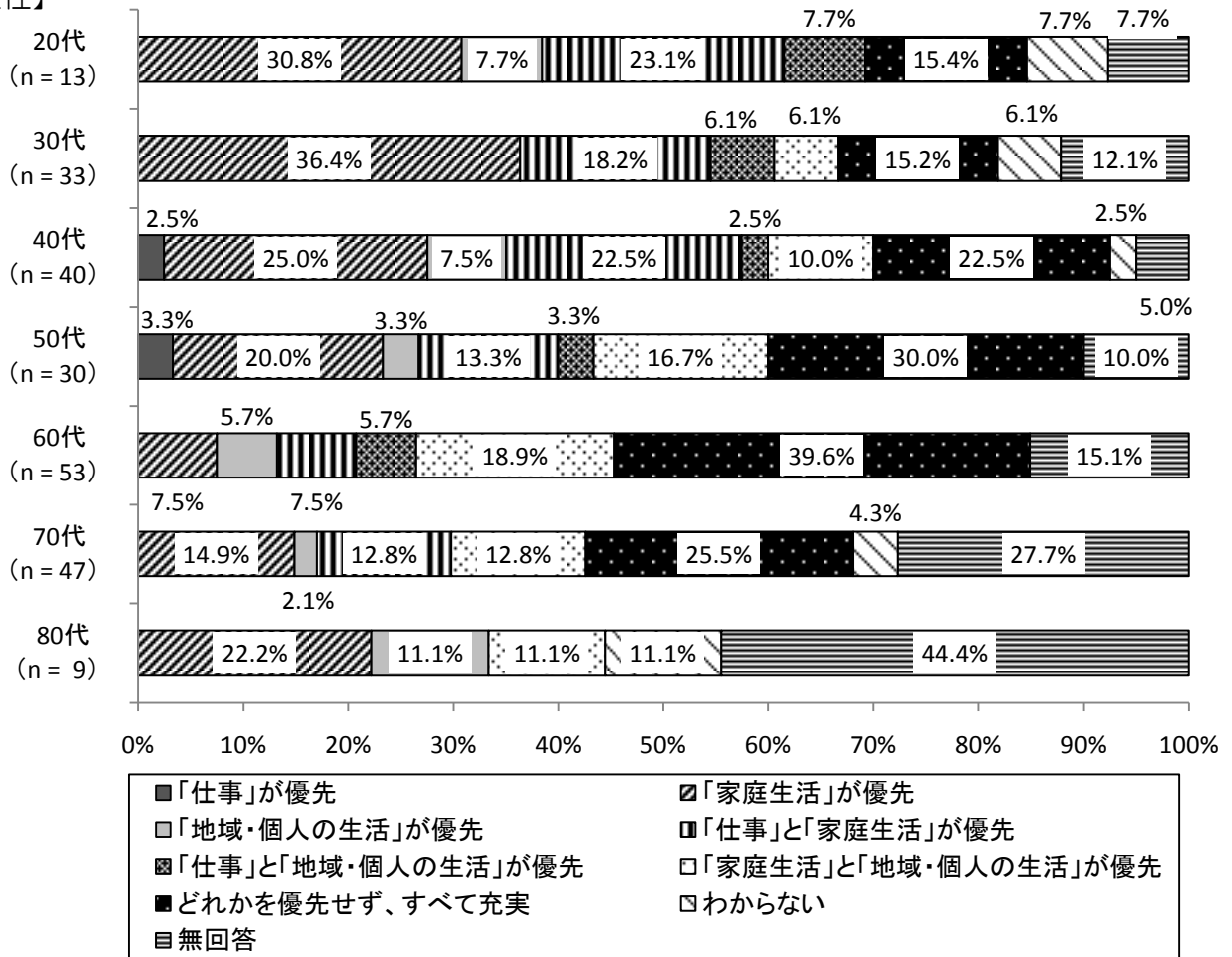
全体でみると、「どれかを優先せず、すべて充実」が22.4%と最も多く、性別でみると、女性は「どれかを優先せず、すべて充実」が25.7%、次いで「家庭生活」が優先の19.9%。男性は「家庭生活」が優先が23.5%と最も多く、次に「仕事」と「家庭生活」が優先の18.5%がそれぞれ多かった。

年代別にみると、女性は20～40代の若い世代では「家庭生活」が優先が最も多く、50～70代では「どれかを優先せず、すべて充実」が最も多かった。

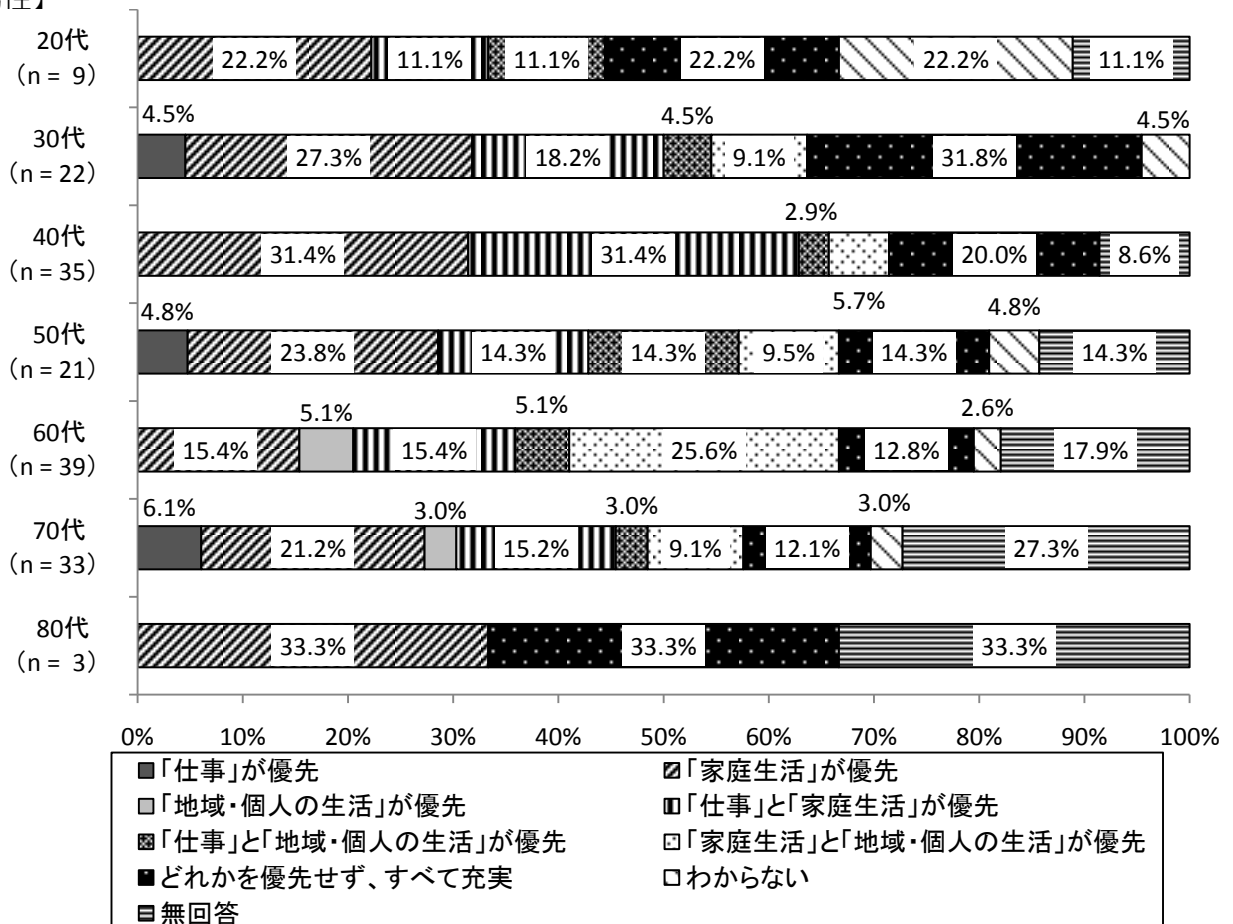
男性は、退職する世代である60代で「家庭生活」と「地域・個人の生活」が優先と答えた人が25.6%と最も多く、それ以外の年代では、おおよそ「家庭生活」が優先と答える人が多かった。ただし、30代では「どれかを優先せず、すべて充実」が31.8%と最も多く、40代では、「仕事」と「家庭生活」が優先が「家庭生活」が優先と並んで31.4%であった。

【性・年代別】

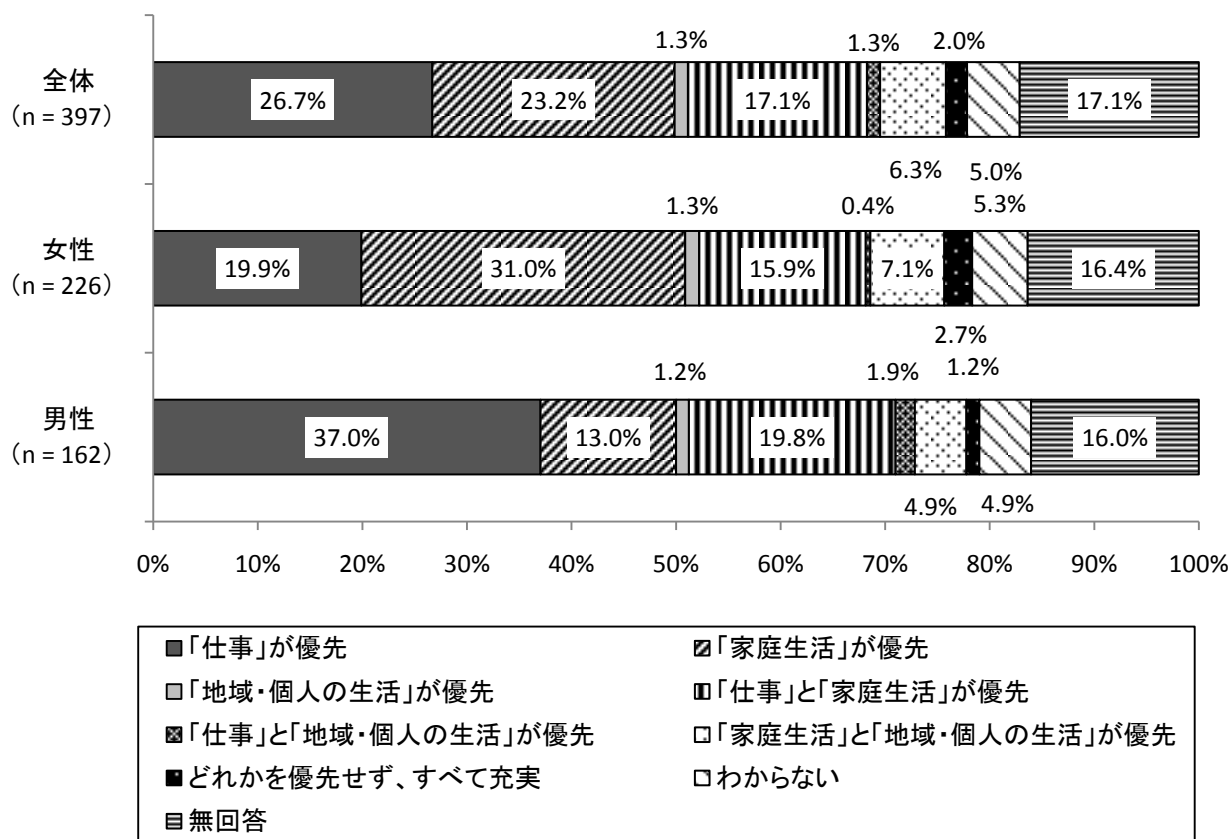
【女性】



【男性】



【現実・全体】



全体では、最も多いのは「仕事」が優先の26.7%で、次いで「家庭生活」が優先が23.2%となっている。

希望と現実を全体で比較すると、希望では「どれかを優先せず、すべて充実」や「家庭生活」が優先が多かったのに対して、現実では、「仕事」が優先となっている。

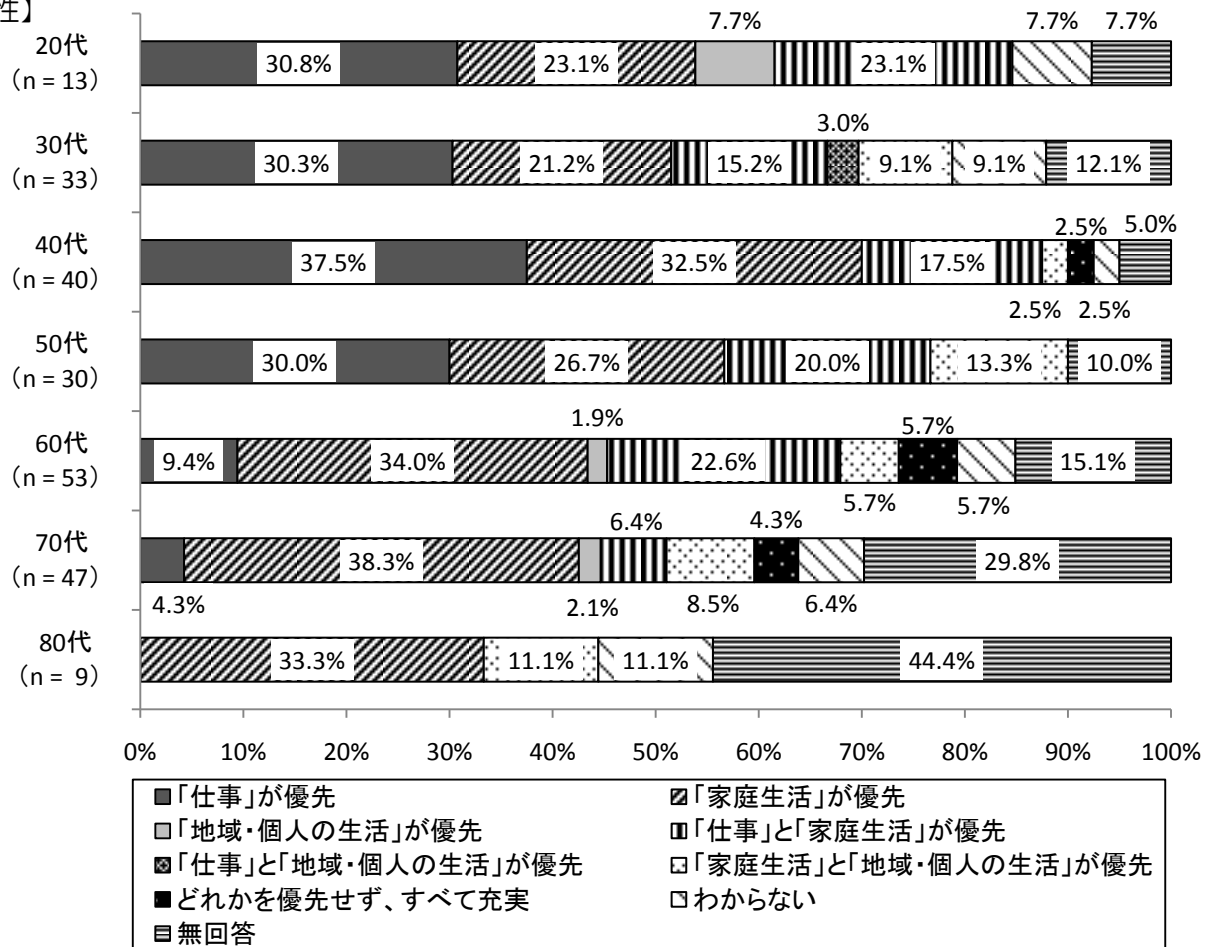
性別にみると、女性は、現実では「家庭生活」が優先と答えた人が31%と最も多く、次に「仕事」が優先19.9%の順となる。男性で最も多いのは「仕事」が優先と答えた人が37%で、次に「仕事」と「家庭生活」が優先19.8%の順となる。女性が「家庭生活」を優先しているのに対して、男性は「仕事」を優先しており、男女とも希望との違いが出ている。

年代別にみると、女性は働いている世代である20～50代を中心に「仕事」が優先が最も多い。「家庭」が優先と答えた女性は、各世代で20～30%と同じくらいになっている。

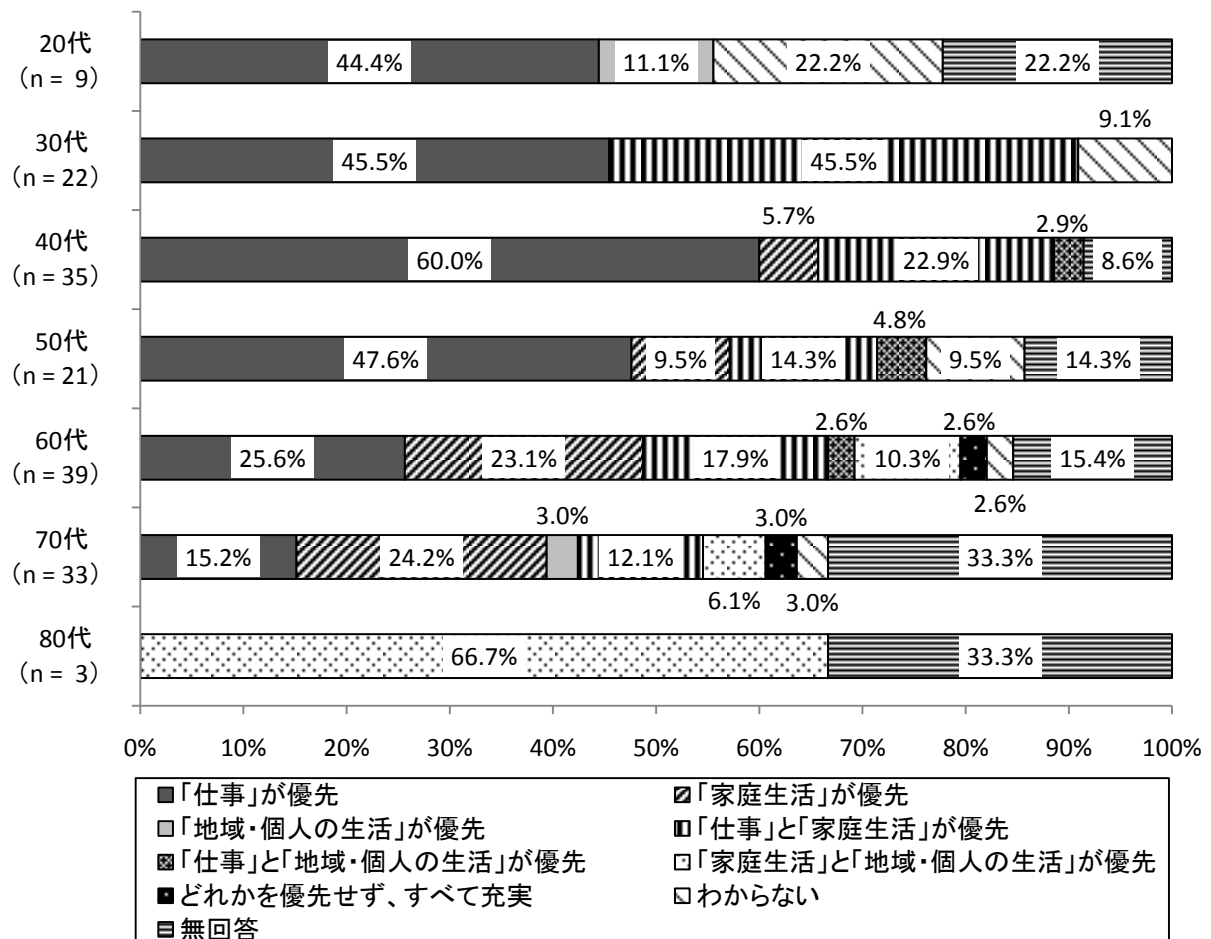
男性は、働いている20～50代で女性と同様に「仕事」が優先が最も多く、同世代では、次いで「仕事」と「家庭生活」が優先が多い。特に20代と30代では同二つの選択肢だけで80%を超えている。

【性・年代別】

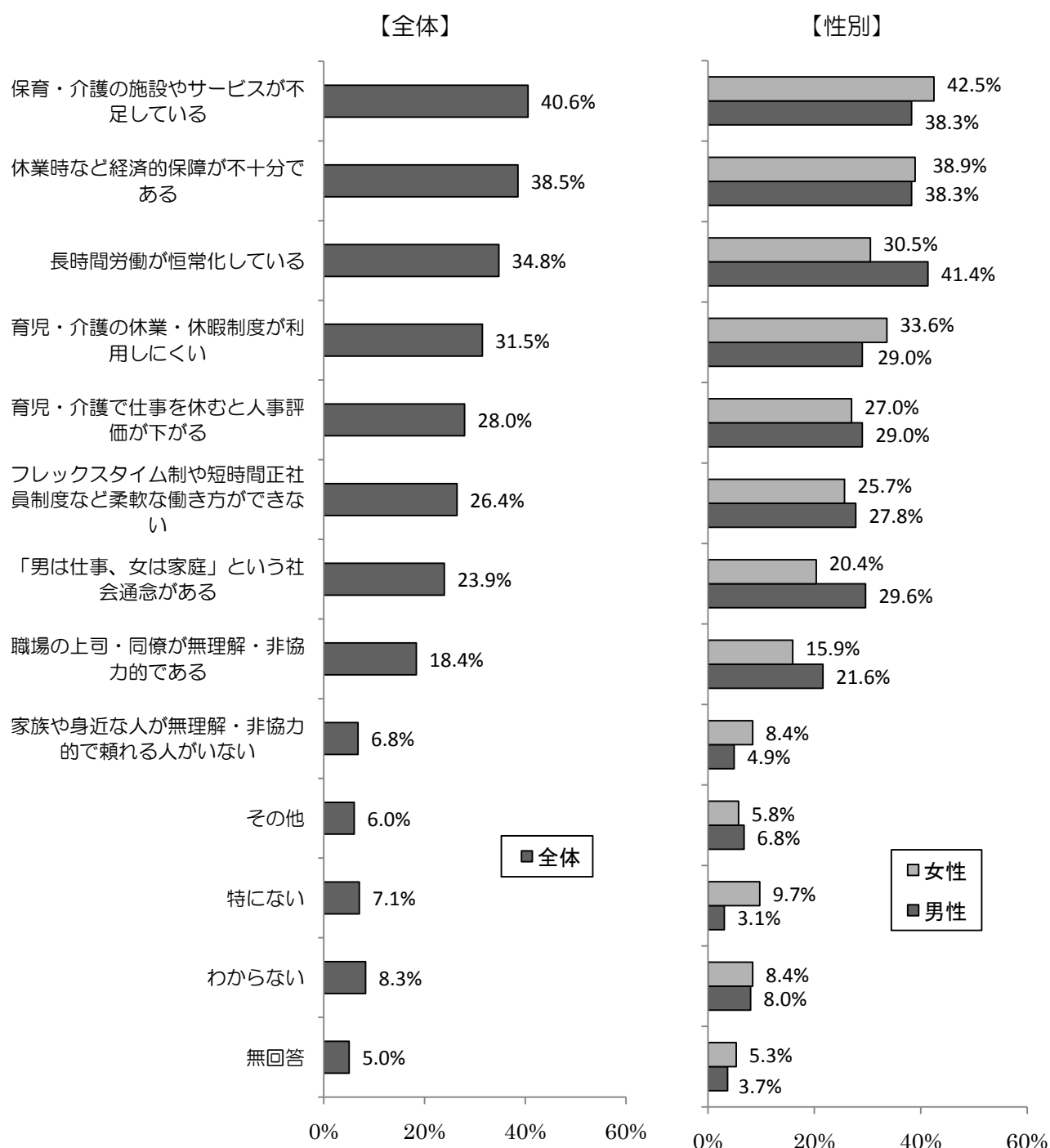
【女性】



【男性】



問 10 ワーク・ライフ・バランスを阻害している要因になっていると思うのはどれですか  
 (あてはまるものすべてに○)



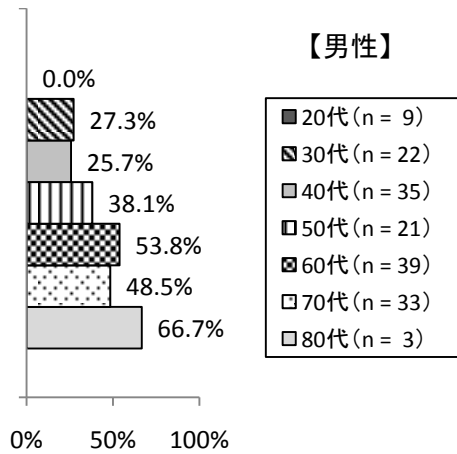
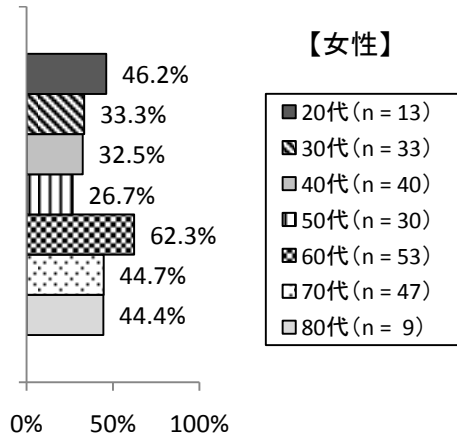
全体で最も多いのは「保育・介護の施設やサービスが不足している」が40.6%で、次いで「休業時など経済的保障が不十分である」38.5%、「長時間労働が恒常化している」34.8%の順になっている。

性別でみると、女性は「保育・介護の施設やサービスが不足している」が42.5%と最も多く、次に「休業時など経済的保障が不十分である」が38.9%。男性は「長時間労働が恒常化している」が41.4%と最も多く、次に「保育・介護の施設やサービスが不足している」と「休業時など経済的保障が不十分である」が同じ38.3%である。

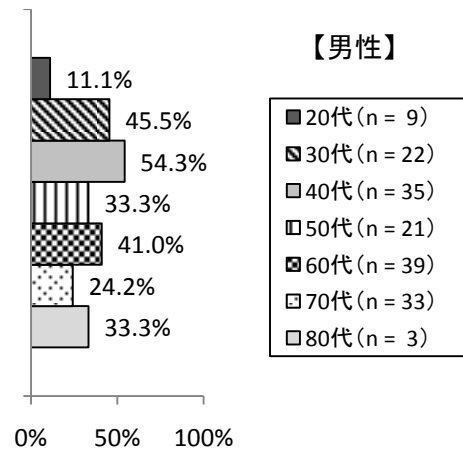
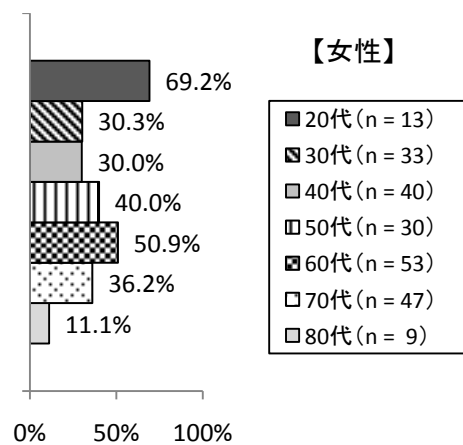
年代別にみると、女性は20代が「休業時など経済的保障が不十分である」が69.2%と最も多く、男性は若いほど「長時間労働が恒常化している」と答えた人が多くなっている。

<性・年代別>上位4項目

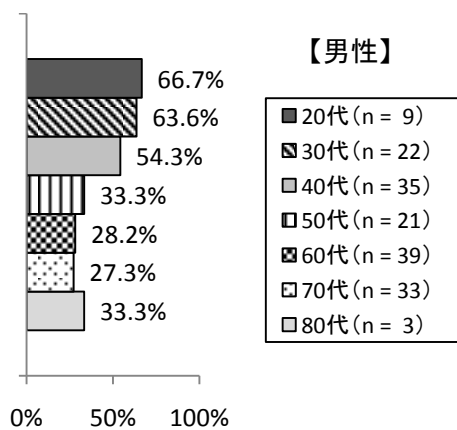
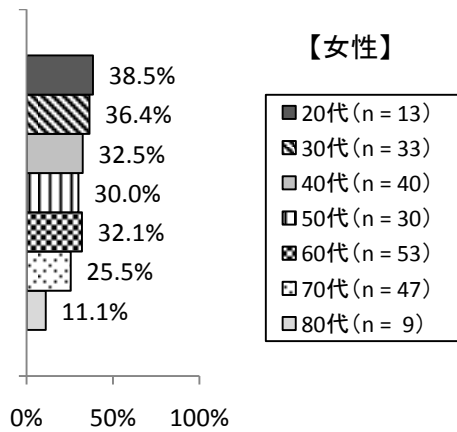
保育・介護の施設やサービスが不足している



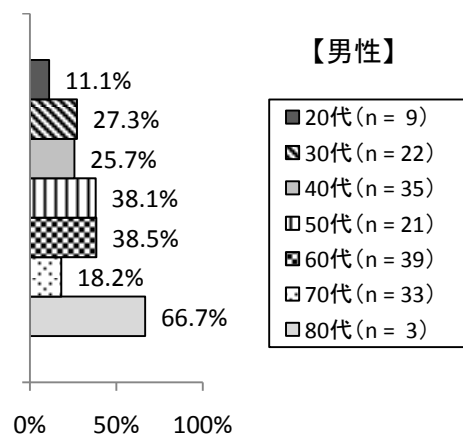
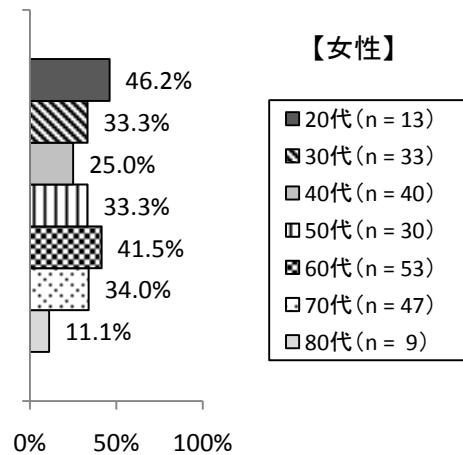
休業時など経済的保障が不十分である



長時間労働が恒常化している



育児・介護の休暇制度が利用しにくい





## <「その他」の回答>

- ・共稼ぎをしなければ生活できない環境を改善する（二人とも仕事が好きな場合を除く）昔は貧乏な世帯が多かったのに、共稼ぎが少なくて生活できたのはなぜでしょう。
- ・中小企業の参加出来る社会状況にない
- ・収入の事が頭の中であり、不安、つい無理している。
- ・保育・介護休暇取得して、職場に戻りづらい。
- ・現実に、夫婦二人で地域との接点がないからわからない。
- ・自分の見栄や体裁だと思う。そもそも、ワークとライフを分ける考え方が根本的に理解できない。
- ・経済的理由。
- ・子どもの教育費、老後の費用などにお金がかかり過ぎる為、仕事を減らしたりやめたりする選択ができない現状がある。
- ・自営なので、働かなければ生活できず、働いても保障がない。
- ・表面上のシステムは充実しているように思えるが現実は、皆、働き過ぎだ。
- ・問題が起こった時に、相談できる人がいない。
- ・正規職員減。
- ・パートで働いているので、正社員よりも会社の制度が利用しにくい！
- ・現実的に、残業なしでは収入が少なく生活が不安。
- ・国の関与が実際の制度運用面で足りていないこと。
- ・私自身は心豊かに生活したいので働いていますが、ニュース等を見ているとすべてあてはまると思います。
- ・職場でワークライフバランスを推奨しているが、結局は業務優先が実体。
- ・孫が小さい為、自分の時間がとれない。親は二人働いている。
- ・やることが多過ぎて（介護、仕事、家事）単に時間が足りない。他人に任せるのは不安だしお金もかかる。家族と分担しているがフルタイムで働いているとどうしても時間的に無理がある。
- ・非正規雇用者に対する国や企業の取り組みが足りない。
- ・週休1.5日、1日8時間労働で帰ってから何かするだけの体力が残らないこと。
- ・不景気、周辺国を含めた競争の激化。
- ・実際に仕事を切り上げ帰宅するのは無理。
- ・不況のせい。

